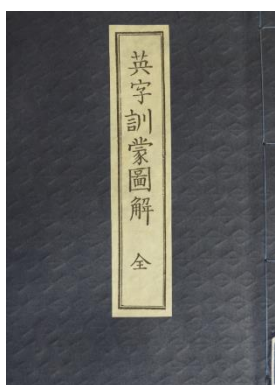


主な展示資料の紹介

- ・ 4、5、6-2の資料以外は全て宮城教育大学附属図書館の資料です。
- ・ 実際の展示の順番に従って、ブロック毎に資料解説を掲載しております。

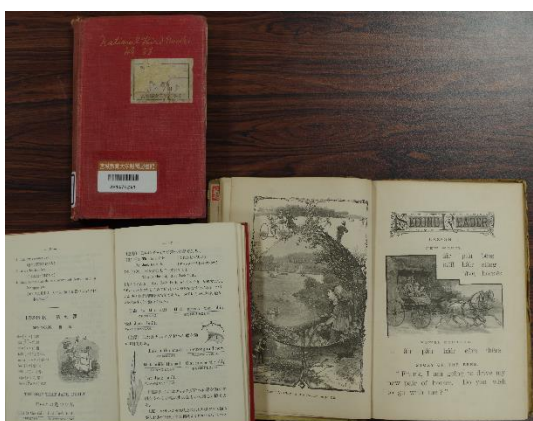
明治・大正・昭和初期の教科書

1 『英字訓蒙圖解 復刻版』 明治4（1871）発行 1987復刻 佐野学園



明治4（1871）年出版教科書の復刻版（1987年）である。オランダ語の影響を受けてか、summerを「ソムメル」と読むなど発音表記に特徴がある。欧米諸国の文化を取り入れ、一日でも早く追いつき、富国強兵に努めなければならなかった時代の日本人の苦勞を感じ取りたい。

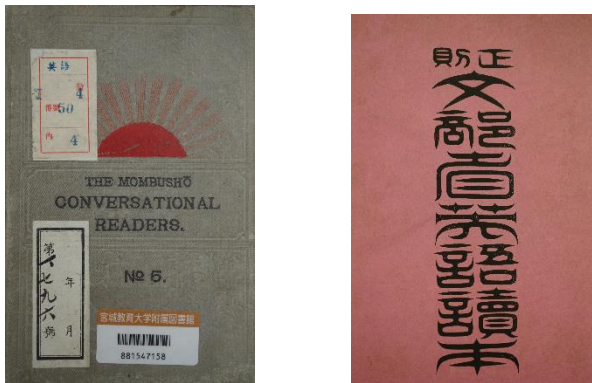
2 『Barnes' new national readers no. 2』 A.S. Barnes 明治16（1883）発行 ほか2冊



—外国輸入教科書—

アメリカの家庭生活や田園風景や動物が話題として多く、教訓的な内容や小説の題材も多い。アメリカの小学生用の国語教科書であったため、日本人用教科書として扱うには困難であっただろう。教師用マニュアルから、英語を日本語に訳して、利用されていたのだろうと推測される。

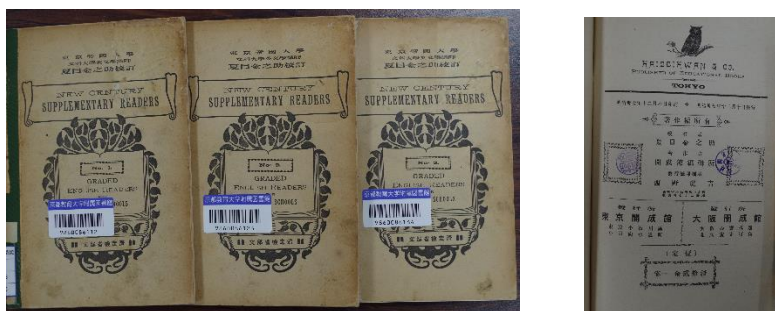
③ 『The Mombushō conversational readers no.3』 Imperial Dept. of Education
 明治 22 (1889) 出版 ほか 3 冊



—日本人にとって理想的な(?)教科書—

輸入教科書ではなく、日本人にとって理想の教科書を作ろうという考えに基づいて作成された最初の教科書である。文法事項を徹底的に反復学習させるという意図を持って作成されている。また、教師と生徒の会話、物語、物語の内容についての Q&A、の 3 部構成が基本で、日本語を介さないで、英文を理解させようというねらいがある。

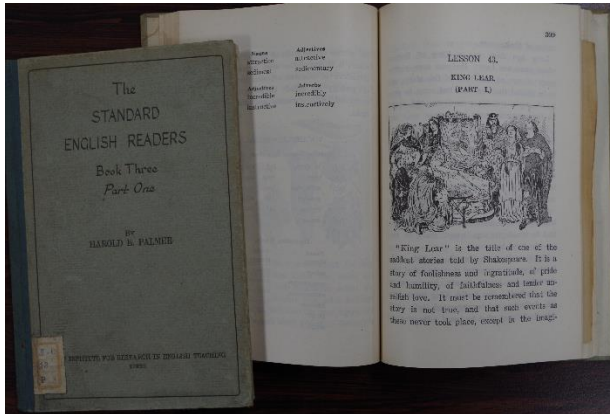
④ 『New century supplementary readers』 K. Natsume (夏目金之助) Kaiseikwan (開成館)
 明治 37 (1904) 発行 1~3 巻 3 冊【所蔵：京都教育大学附属図書館】



—夏目漱石校訂の教科書—

文豪夏目漱石は、東京帝国大学の英文科 2 人目の卒業生であり、愛媛松山の愛媛県尋常中学校や熊本の第五高等学校（現在の熊本大学）等で英語教師を勤めた後、イギリスに留学した。帰朝後、東京帝大や第一高等学校で英語と英文学を教えた。彼は小説家として有名であるが、このように英語に係る仕事に長く従事しており、英語教科書の編纂にも携わっている。

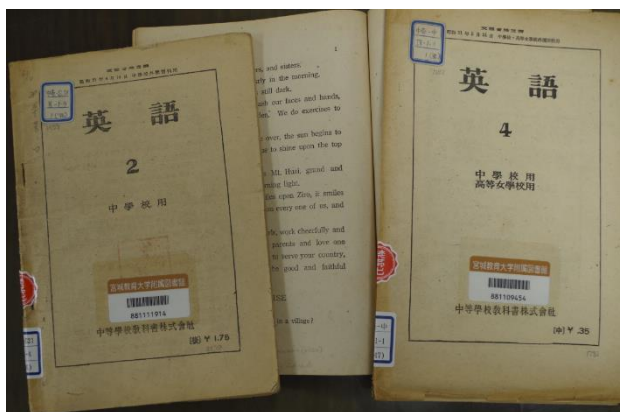
- 5 『The standard English readers book.3 part.1,2 (標準英語讀本)』 Harold E. Palmer
 Institute for research in English teaching (英語教授研究所) 昭和 2 (1927) 発行
 【所蔵：東北大学附属図書館】



—パーマーの教科書—

ハロルド・E・パーマー氏は日本の英語教育の近代化に尽力した人物である。日本語を介さず、口頭による反復練習によって、英語を身につけることを念頭において作成されているのが特徴である。

- 6-1 『英語：中學校用』 中等學校教科書株式會社 昭和 21 (1946) 検定 ほか 5 冊



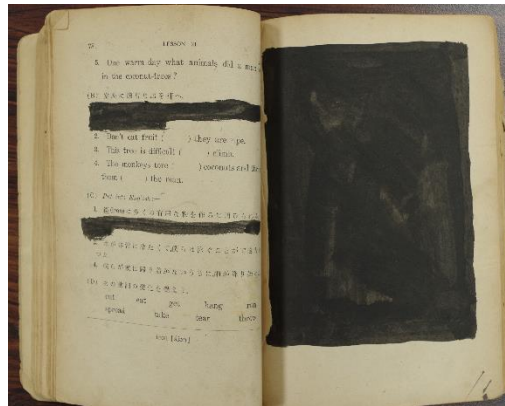
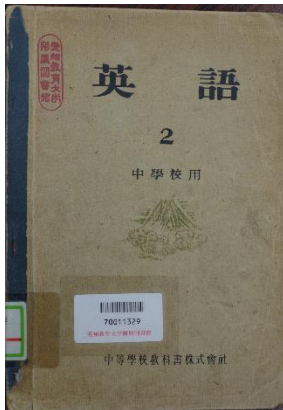
—国定教科書（戦後直後版）—

昭和 19(1944)年検定の教科書では、男子の英雄的な記述、戦争の賛美、大東亜共栄圏や天皇制の記述等戦時中らしい内容があった。その軍国主義的な内容を省き、改めたものである。例えば、Lesson 32 Be a Good Japanese Boy! には、以下のように記されているとのことである（伊村, 2003）。

We stand in a line, turn toward the Imperial Palace and bow.
 We thank our soldiers and sailors for their brave deeds.
 We pray for our success in war.

この箇所は、本学所蔵の昭和 21 (1946) 年版『英語 1』では、軍国主義や侵略や天皇制に関する記述として削除されている。この他にも、Nippon という表記を Japan に修正したほか、大東亜共栄圏の地図や日の丸が削除されているようだ。

6-2 『英語：中学校用』 中等学校教科書株式会社 昭和 19 (1944) 検定
【所蔵：愛知教育大学附属図書館】



— 国定教科書（戦時中版：墨ぬり・切り取り有り） —

昭和 19 (1944) 年検定の教科書で、軍国主義的な箇所には墨ぬり、切り取りが施されているものである。当時、GHQ の指示で、軍国主義、侵略、天皇制に関する記述に、墨をぬったり、切り取ったりして、見えなくするということが行われていた。いわゆる『墨ぬり教科書』である。例えば、この『英語 2』の Lesson 21 では、3 箇所が墨ぬりされている。練習問題の (B) 1. Bananas grow in Formosa () it is warm all the year round. が削除されているわけであるが、Formosa が台湾の別称であり、侵略をイメージさせることから削除されたのではないかと推察される。(C) 2. ...戦地... という箇所が削除され、79 頁はすべて墨でぬられている。

戦後の教科書

7 『Let's learn English book.1』 文部省 教育図書 昭和 22 (1947) 検定 ほか 2 冊

—戦後初の国定教科書—

Book 1 は文法中心で, I have a bicycle の疑問文が Have you a bicycle? であることが面白い。戦前の教科書が This is～で始まっていたのに対し, I am～で始まるようになったのにも注目に値する。Book 2 や Book 3 は, リーディング中心の構成である。

8 『Jack and Betty : English step by step 1st step』 萩原恭平ほか 開隆堂出版
昭和 23 (1948) 検定 ほか 3 冊

—Jack and Betty の登場—

当時最も採用された教科書である。アメリカの中産階級の家庭生活や学校生活を題材としている。口頭表現中心の構成で, 脚注に新出語句が出ているほか, 本文の上に Jack, Betty, Jack to Betty, Betty to Jack のように発言者を提示しているのが特徴的である。

- 9 『The globe readers book1』 [見本版] 福原麟太郎編 研究社
昭和 29 (1954) 改訂検定 ほか 2 冊

—リーダーの代表的教科書—

口頭表現中心の『Jack and Betty』と対照的に、リーディング中心だった教科書として注目すべき存在である。内容は、イギリスが舞台となっている。

「経済復興」「高度経済成長」時代の教科書

- 10 『Jack and Betty: English step by step』 萩原恭平ほか 開隆堂 昭和 32 (1957) 検定

—Jack and Betty の全盛期—

『Jack and Betty』の全盛期の教科書である。8の『Jack and Betty』では I am～で始まっているのに対し、This is～で始まる点が面白い。

- 11 『New globe readers standard ed. Book 1』 福原麟太郎 研究社出版
昭和 36 (1961) 検定 ほか 2 冊

—最後のリーダー—

英語の授業時数も 3 時間に減らされ、語彙や言語材料が削減された。リーディング中心の教科書にとっては受難の時代であった。「リーダー」という名前の教科書はこれが最後の刊行物で、その後「コース」や「シリーズ」という名称が一般的になる。

- 12 『The junior crown : English course 1 Revised ed.』 [見本版] William L. Clark 三省堂
昭和 40 (1965) 検定 ほか 3 冊

巻頭のカラー写真

折込式チャート

—ユニークな教科書—

巻頭のカラー写真 2 枚が目を引き。題材が欧米一辺倒ではないことに注目したい。例えば、日本人がアメリカを訪問する話や、アメリカ人一家が日本、インド、アフリカなど国々を旅行するという話が題材となっている。巻頭は **I have a book.** で始まっている点が興味深い。Have you～? が Do you have～? のアメリカ式に変化することも特徴的である。巻末についている資料は、折込式チャートの先駆けである。

- 13** 『New prince : English course 1』 稲村松雄ほか 開隆堂
昭和 49 (1974) 改訂検定 ほか 3 冊

—日本も題材に①—

経済復興や高度経済成長下にあつて、教科書の内容は、日本を題材としたものが徐々に見られるようになる。例えば、小泉八雲文学の Mujina が登場する。

- 14** 『New horizon : English course Revised ed.1』 太田朗ほか 東京書籍
昭和 49 (1974) 改訂検定 ほか 2 冊

—日本も題材に②—

日本人をテーマにした題材も多く見られるようになる。例えば、Akio Ogawa という男子生徒がアメリカに行き、アメリカの学校について学んでいる場面が登場する。

「ゆとり」「自己教育力」時代の教科書

15 『New horizon : English course 3』 太田朗ほか 東京書籍 平成元 (1989)検定

—日本文化を発信しよう①—

日本文化を積極的に発信しようという題材などが取り上げられるようになるのが特徴的である。例えば、日本文化である書道がテーマに取り上げられている。

16 『New horizon : English course 3』 浅野博ほか 東京書籍 平成 8 (1996) 検定

—日本文化を発信しよう②—

日本初の女性狂言師である和泉淳子さんのインタビューが題材として取り上げられる。平成 5 (1993) 年の時点で、日本人が登場する話が 74%に達し、アメリカ人の 53%を上回ることから (江利川, 2008), 英語教科書の内容がアメリカを中心とする欧米から日本の話題に大きくシフトしたことが分かる。

17 『New crown : English series new ed. 3』 森住衛ほか 三省堂 平成 8 (1996) 検定

—過去の反省も忘れない—

日本人としてのアイデンティティを強調しつつも、広島に落とされた原爆を取り上げて、平和の重要性を考えさせる題材も掲載されている。

18 『The crown English reader new ed. IIB』 平野敬一ほか 三省堂
平成 4 (1992) 改訂検定

—必修語数が削減された高校—

戦後の習得語彙数 1,500～3,600 語から 1,400～1,900 語へ大幅に削減された時期の教科書である。

19 『New horizon : English course 1』 浅野博ほか 東京書籍 平成 4 (1992) 検定

—必修語数が削減された中学校—

戦後の語彙数 1,100~1,300 語から 1,000 語へ削減された時期の教科書である。

20 『New horizon : English course 3』 浅野博ほか 東京書籍 平成 4 (1992) 検定

—環境問題の登場—

地球規模の問題として、環境問題が題材に出てくるようになった。例えば、酸性雨や地球温暖化といった題材が紹介されている。

21 『New horizon : English course 2』 浅野博ほか 東京書籍 平成 8 (1996) 検定

—多文化主義の強調—

多文化主義を強調する題材が登場する。例えば、従来の欧米一辺倒の話題とは別に、アフリカの子どもたちを救おうという題材が取り上げられている。アジア、アフリカ、中南米などの題材が、昭和 56 (1981) 年度の教科書では 12%であったのに対して、平成 5 (1993) 年度では 32%に急増する (江利川, 2008)。

22 『New crown : English series new. ed. 2』 森住衛ほか 三省堂 平成 8 (1996) 検定

—日本人のアイデンティティ—

日本人としてのアイデンティティが強調されるような内容である。例えば、アイヌ民族の文化と言語が題材に取り上げられている。

「生きる力」養成時代の教科書

23 『Sunshine English course 3』佐野正之ほか 開隆堂 平成 17（2005）検定

—日本人のアイデンティティ①—

前の時代に引き続き、日本人としてのアイデンティティが教科書に反映している。例えば、文化によるあいさつの違いを理解し、日本人の考え方を説明できるようにするという題材が配列されている。

24 『New horizon English course 3』笠島準一ほか 東京書籍 平成 17（2005）検定

—日本人のアイデンティティ②—

同じく前の時代に引き続き、日本人としてのアイデンティティが教科書に反映している。例えば、英語番組で三味線が紹介されている場面が取り上げられている。

25 『New horizon English course 2』 笠島準一ほか 東京書籍 平成 17 (2005) 検定

—欧米にこだわらない—

さらに同じく、前の時代に引き続き、欧米にこだわらずグローバルな視点を持つことの重要性を反映している。例えば、韓国、タイ、中国に住む子どもたちが、日本の漫画について英語でメールしあっているウェブページから、主人公のエミが情報収集をしているところを題材として取り上げている箇所が典型的である。

26 『Sunshine English course 1』 佐野正之ほか 開隆堂 平成 17 (2005) 検定

—実践的コミュニケーション能力の育成—

実践的コミュニケーション能力の育成がテーマである。例えば、登場人物の由紀が飛行機の中で乗客と会話する場面が登場する。その他にも、ALT や留学生との会話、インターネットによる情報収集、海外への修学旅行の場面等を設定することで、実際のコミュニケーションを目的として、英語を使えるようにするねらいが盛り込まれている。

27 『Total English 3』 堀口俊一ほか 学校図書 平成 17 (2005) 検定

—少数民族の文化や言語への関心—

ブータン王国がテーマになっていて、少数民族の文化を理解することの重要性を伝えている。

「グローバル」時代の教科書

28 『New horizon English course 2』 笠島準一ほか 東京書籍
平成 23 (2011) 検定 ほか 2 冊

—技能統合型の活動の登場—

複数の技能がつながるよう技能統合型の活動が強調されている。例えば、Listening Plus の Step 3 で、英語を「聞き」て、答えを「書く」という活動が用意されている。Speaking Plus でも、リスニングマークが付けられ、重要表現を「聞き」て、それを「書き」て確認する作業が新設された。

29 『Sunshine English course 1』 新里眞男ほか 開隆堂 平成 23 (2011) 検定 ほか 2 冊

—文法指導の重要性の再認識—

昭和 61 (1986) 年から本文の下に付けられていた目標文が上に移動した。これは、新学習指導要領で、文法指導はコミュニケーションを支えるものと改めて明示されたことによる、文法指導の重要性の再認識の現れとして評価できる。

30 『Vista: English communication I』 金子朝子 ほか 三省堂
平成 24 (2012) 検定 ほか 5 冊

—英語の授業は英語で—

平成 25 (2013) 年から新学習指導要領に基づく、高等学校外国語科が始まる。科目名が一新され、「コミュニケーション英語」、「英語表現」、「英語会話」等、コミュニケーション能力の育成がさらに強調されるものとなっている。

「小学校外国語活動」教材

31 『英語ノート 2』 文部科学省 教育出版 平成 21（2009）発行 ほか 1 冊

小学校での外国語活動必修化の移行期間に配布された準教科書である。音声 CD が付いており、音声面でのコミュニケーション能力の素地を育成できるように作成されている。

32 『Hi, friends! 2』 文部科学省 東京書籍 平成 24（2012）発行 ほか 1 冊 + CD2 枚

この年度から小学校における外国語活動が 5,6 年生を対象に必修化した。年間 35 時間が確保され、デジタル版教科書も発行された。英語の免許状を取得してこなかった小学校教諭にとっても重要な教材となっている。

- 33 『ベーシックピクチャーカード：小学校外国語活動：Hi, friends!準拠』
文部科学省 平成 24（2012）発行
『英語絵ノート：Hi, friends!』こどもくらぶ編 東京書籍 平成 24（2012）発行

『Hi, friends!』の考えに沿った指導を行うための参考図書，家庭用教材，ピクチャーカード，掛図等豊富な教材が用意されている。

【さらに詳しく知るために】

展示作成の上で参考にした図書を紹介します。

- ・伊村元道『日本の英語教育 200 年』大修館書店, 2003, 309 p.
- ・江利川春雄『日本人は英語をどう学んできたかー英語教育の社会文化史』研究社, 2008, 283 p.
- ・稲村松雄『ジャック・アンド・ベティーから 21 世紀へ』桐原書店, 1993, 223 p.
- ・伊村元道, 若林俊輔『英語教育の歩み：変遷と明日への提言』中教出版, 1980, 252 p.